

国立 奈良女子大学

プログラムの名称：チャレンジする女性のキャリア形成支援

-- 卒業生ネットワークを活用した在學生・卒業生のキャリア形成支援

プログラム担当者：副学長（教育・学生支援担当）井上 裕正

キーワード

- 1．キャリア形成支援 2．再チャレンジ 3．ライフサイクル
4．卒業生ネットワーク

1．大学の概要

奈良女子大学は、1908（明治41）年に女子教員の養成を目的として設置された奈良女子高等師範学校をその前身としている。

1949（昭和24）年、国立学校設置法の公布により、奈良女子高等師範学校を母体に新制大学として奈良女子大学が充足し、「女子の高等教育機関として、広く知識を授けるとともに、専門の學術文化を教授、研究し、その能力を展開させるとともに、學術の理論及び応用を教授、研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与すること」（本学学則より）を目的として教育研究活動を行っている。

本学は、社会における女性の知的自立と知的展開能力の獲得を目指すとともに、時代状況や社会の変化にも柔軟に対応し、また、社会からの要請に応えるべく、2000（平成12）年11月に次の4つの基本理念を定めた。

理念1 男女共同参画社会をリードする人材の育成
女性の能力発現をはかり情報発信する
大学へ

理念2 教養教育、基礎教育の充実と専門教育の高度化

理念3 高度な基礎研究と学際研究の追究

理念4 開かれた大学

国際交流の推進と地域・社会への貢献

本学キャンパスは、歴史的遺産の宝庫でもある奈良市中心部の交通至便な場所に位置し、文学部、理学部、生活環境学部の3学部と、さらに、高度な教育研究を担う文理融合の学際的な研究を特色とする大学院人間文化研究科を配置して、小規模ながらも個性ある教育・研究の推進を目指している。

また、附属施設として、附属中等教育学校、附属小学校、附属幼稚園を設けるほか、附属図書館、保健管理センター、総合情報処理センター、国際交流センター、共生科学研究センター等の多くの教育研究センタ

ーを有している。

2．本プログラムの概要

このプログラムは、本学在學生に対するキャリア形成・就職支援の充実を図るとともに、卒業生・修了生に対しても、結婚・出産・育児などの女性のライフサイクルに即したキャリア形成支援を目指すものである。

2007（平成19）年からスタートした大学院人間文化研究科修了生ネットワーク構築のための大学院修了生キャリア支援メーリングリストの機能をさらに改善し、対象を学部学生にまで拡張したシステムを開発し、本学卒業生・修了生のデータベース構築を目指している。

この取組によって卒業後の就・転職のための求人情報の提供や研究職志望者に対する研究職公募情報を卒業生や修了生に提供することにより再チャレンジを支援することが可能となる。また、育児や介護・職業などに関する卒業生相互の情報交換の場としての役割を担うことによって、卒業生ネットワークの形成にも資することができる。

さらに大学と卒業生が一体となった在學生の支援やキャリア教育などの改善につなげるとともに、将来的には、本学の就職支援体制の整備につなげていきたい。

3．本プログラムの趣旨・目的

我が国では、少子・高齢化が進み、1998（平成10）年をピークに労働力人口が減少しはじめている。今後さらに総人口の減少も予測され、加えて、団塊の世代の大量退職による人材不足から、企業においては、優秀な人材の確保が重要な問題となっている。こうした状況にあって、女性の労働市場への積極的な参加は、我が国の経済を労働力の供給の面から支えるという意味でも非常に重要な課題である。

本学は、女子大学として21世紀の新しい時代を担う

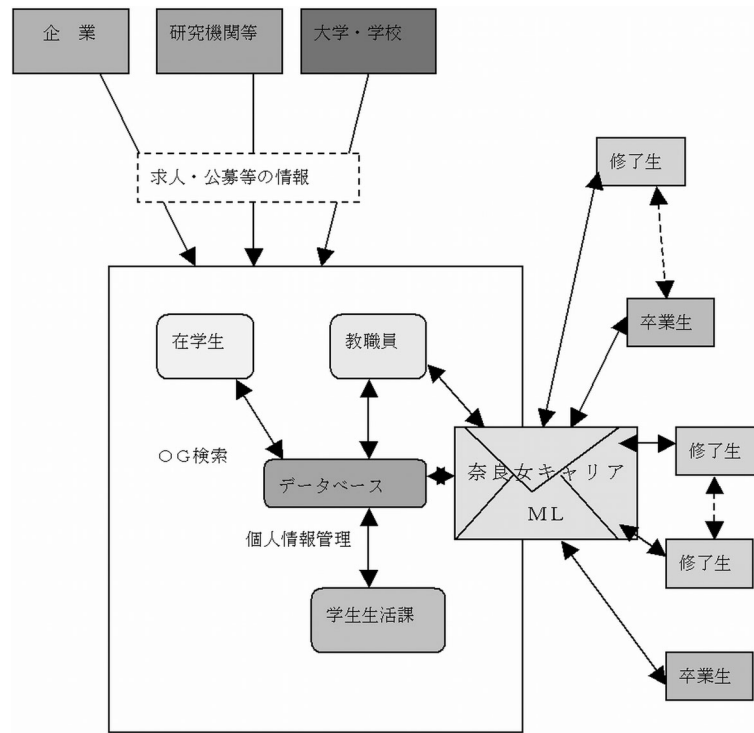


図1 奈良女子大学キャリア形成支援システムの概要

女性人材の育成を基本理念に、社会のリーダーとして男女共同参画社会の実現に貢献できる女性人材の養成を目標に掲げて女性人材の育成に努め、2005（平成17）年11月に奈良女子大学男女共同参画推進室を設置し、男女共同参画の推進方策の企画・立案や調査・現状分析、啓発活動などの取組を行ってきた。また、生涯にわたる女性研究者共助システムの構築を目的としたプログラムを開始するなど、女性がその能力を最大限に発揮できるようにするため、大学や公的研究機関を対象として女性研究者が研究と出産・育児を両立するための支援の事業をも展開している。

本プログラムは、このような状況の中で、さらに女性のキャリア形成支援の充実を図るため、本学卒業生や大学院修了生を対象とした卒業生ネットワークを形成し、在学生のみならず卒業生・修了生に対するキャリア形成を支援するために次のような取組を展開することを目的として企画するものである。

女性の人材需要の高まりや結婚・出産・育児などの女性特有のライフサイクルの中で多様な働き方を求めて就・転職や再就職・再チャレンジを目指すチャレンジする女性のキャリア形成を支援することは、これからの社会に是非とも必要となる取組であると考える。

- ・卒業生・修了生に対する就職・転職情報（求人情報）の提供
- ・研究職を志望する大学院修了生に対する研究職公募情報等の提供

- ・卒業生・修了生へのキャリア・カウンセリング
- ・卒業生等の間での育児や介護等の支援の情報交換
- ・在学生のためのキャリア教育科目のゲストスピーカーの募集
- ・OG訪問など在学生の就職活動への支援
- ・卒業生・修了生のキャリアの現状把握

このプログラムは、すでに本学大学院人間文化研究科においてスタートしている修了生のキャリア支援のためのメーリングリストによるシステムをベースとして構想したものである。本学大学院人間文化研究科では、2005（平成17）年度から修了生のキャリア支援のための方策の検討に着手し、2007（平成19）年度から、女性のキャリア支援のためのメーリングリストの運用を開始した。このシステムは、本学大学院修了生がキャリアを向上させる上で有益な情報を相互に交換するとともに、研究職等の公募情報や育児・介護等に関する支援情報の提供やメーリングリストのメンバーから投稿された情報をメンバーに発信するなど、修了生で構成されたメンバー間で共有しようとするものである。2007（平成19）年4月から運用を開始したが、現時点ではまだ百数十名の登録しかない状態であり、今後、本学同窓会の協力を得て、このメーリングリストの周知を図っていく予定である。

本プログラムの中核となる奈良女子大学キャリア形成支援システムの概要を図1に示す。

1990年代初頭のバブル景気の終焉以降、我が国の経

済は長い低迷の時代に入り、企業の採用活動も低調となり、学生の就職環境についても就職氷河期と呼ばれる時代が続いてきた。このような状況の中で、大卒の無業者の増加やフリーター、ニートの増加が社会問題化し、学生に対するキャリア教育の必要性が高まり、学生の職業観や就労意欲の啓発等を目的としたキャリア教育の取組が進められるようになった。

就職環境については、ようやく数年前から景気の回復傾向が見られるようになり、それに加えて団塊世代の大量退職や少子化による人材不足により、企業の採用活動が活発化し、2007（平成19）年にいたっては、バブル期に匹敵する売り手市場といわれるまでに回復してきたところである。

本学では、中期計画において「学生の進路に対する指導・支援体制の整備・充実に努める」を掲げ、さらに年度計画において「就職相談体制の整備を図り、よりきめ細かで専門的な視点からの支援を充実する」を掲げて、学生の就職支援の充実に取り組んできた。

本学における学生に対する就職支援として、ガイダンスや就職活動支援セミナーの充実を図り、年間30回近くの各種のセミナー等を開催している。また、2005（平成17）年度からは就職資料室にキャリア・アドバイザーを週2回配置し、進路選択や就職活動に関する個別の相談に応じられるよう相談体制の整備を図ってきた。

さらに、本学においてもキャリア教育の重要性の認

識から、教育計画室にキャリア教育部会を設置し、法人化後の2004（平成16）年度から低学年次からのキャリア教育として「現代社会と職業」や「専門職論」を正課授業として開講し、2006（平成18）年度からは「キャリアデザイン・ゼミナール」を開講し、卒業後の進路選択や職業観、働くことの意味などを早い時期から考える機会を設けている。

また、従来から企業等からの求人を見つけてWeb上で検索できる求人情報公開システムを開発し、学部3年生以上の学生が誰でも本学に届いた求人票を自由に検索できるようにし、卒業後も1年間は学外から利用できるようにしている。

このような学生を取り巻く就職環境の変化の中で、本学学生の就職状況については、景気の低迷期においてもある程度安定した就職率を示してきた（図2「奈良女子大学卒業生・修了生の就職率推移」参照）。

しかしながら、毎年わずかながら就職できないまま卒業・修了する者があり、また、社会的には就職後3年以内の離職率が3割を超えるなど、ミスマッチによる離職者の存在も考えられることから、このような卒業生・修了生への支援の必要性も生じている。

また、本学が卒業生に対して実施したアンケート調査（2007（平成19）年3月23日に学部卒業時における学生の総合的満足度を調査）において、「卒業後における本学との関わりあいに対する要望」を尋ねたところ、「就職（転職）や進学の支援・相談」や「キャリア相談

奈良女子大学卒業生・修了生の就職率推移

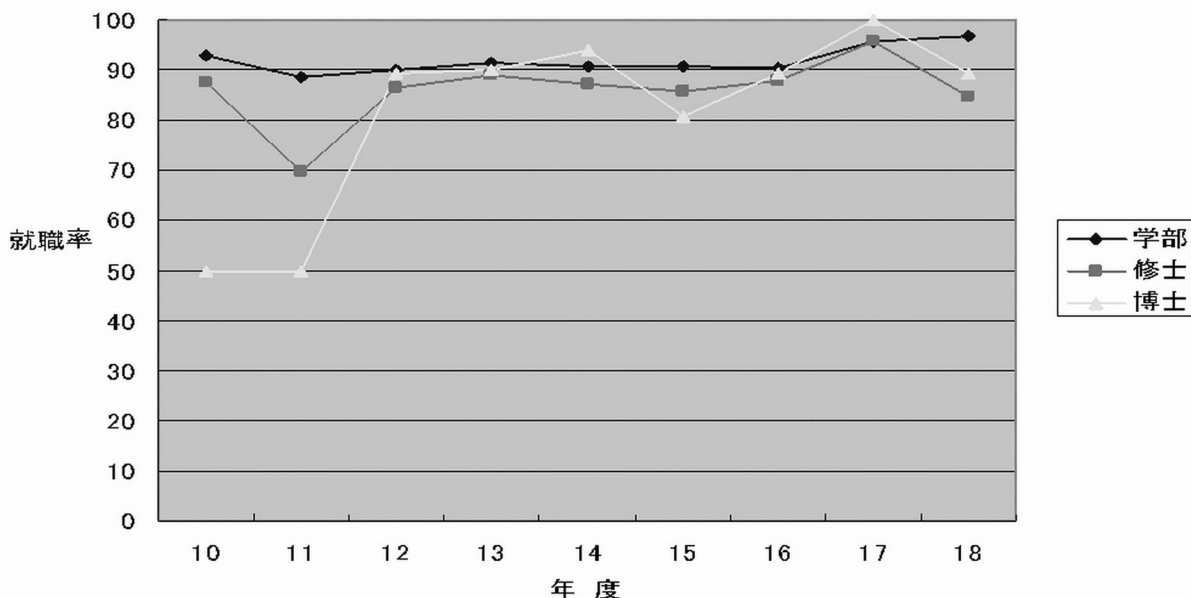


図2 奈良女子大学卒業生・修了生の就職率推移

卒業後の本学との関わりについて（複数回答）

（ケース数108に対する回答）

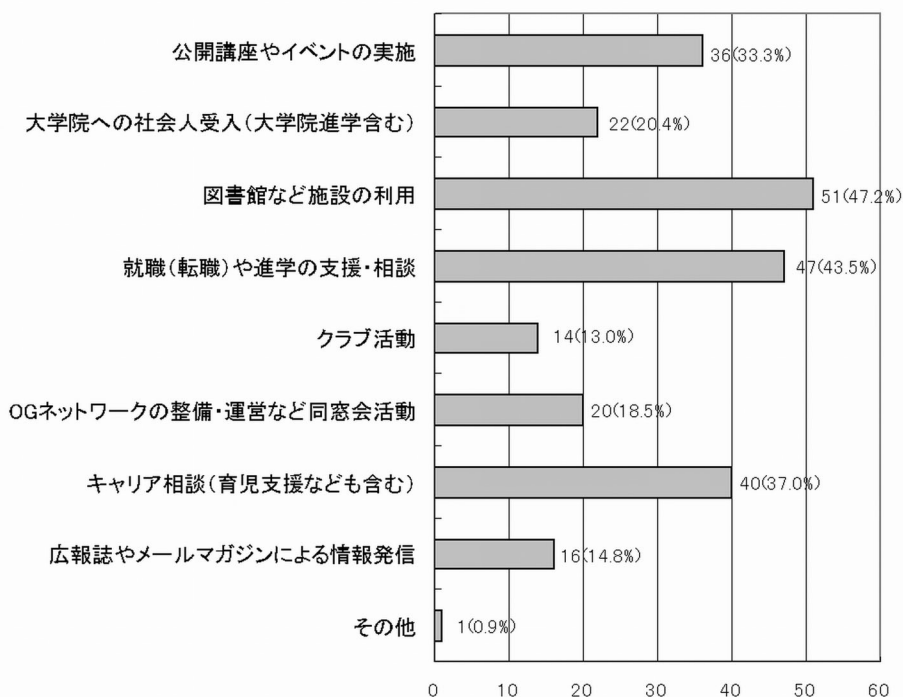


図3 卒業後における本学との関わりあいに対する要望

（育児支援なども含む）」を望む声が強かった（図3「卒業後における本学との関わりあいに対する要望」参照）。

このようなことから、新たな取組として本学卒業生・修了生に対し、卒業後・修了後もキャリア形成を支援する取組を計画したものである。

なお、本プログラムは、これまでの本学大学院修了生だけでなく全卒業生を対象にする事業であり、膨大なデータ処理や個人情報の管理などに組織的な対応が必要となるとともに、新たなサーバー等の設備の設置や運用スタッフ、キャリア・アドバイザーの配置が必要となることから、経費補助の申請を行ったものである。

4 . 本プログラムの独自性（工夫されている内容）

卒業生の情報については、卒業時点での進路や就職先などは把握することができているが、数年も経過すると、各学部の学科単位や教室単位で追跡しているところもあるが、大学全体としての把握・管理は行っていない。卒業生の現状については、これまでは同窓会等の保有する個人情報の提供に頼っていたところであるが、個人情報保護法施行以後、情報の取得が困難に

なり、独自に追跡調査を行うことしか方法がない状態である。そこで、このキャリア形成支援システムによる登録メンバーからのデータを蓄積することによって卒業生の現況に関する情報を集積することができ、一定程度の卒業生の現状を把握することが可能となるものと考えている。

また、このシステムによって大学と卒業生とのコミュニケーションを図ることができ、大学が様々な面で卒業生の協力を得ることも可能となるとともに、大学に対する卒業生の意見をモニタリングすることも容易になる。

5 . 本プログラムの有効性（効果）

この取組により、卒業生等の卒業後のキャリア形成を支援することができ、また、大学にとっては、これまでは卒業時点での就職先しか確実に把握できなかったものが、より現状の活動状況を把握できることとなり、大学にとっての一つの資源でもある卒業生のキャリアをデータベース化することが可能となる。

また、大学における教育面でもキャリア教育科目を開講するうえで、卒業生をゲストスピーカーとして招へいして講演願うなどの協力を得ることができ、さら

に在学生在が就職活動を行って行く上で、OG訪問などにおいて先輩の協力を求めることも多く、このような面においても卒業生等の状況を把握することは、学生の進路選択や就職活動に大いに役立つものとなる。

本学には古くから同窓会が組織され、多くの卒業生が会員となっているが、近年になって、若い世代の加入率が低下し、同窓会離れの傾向が見受けられる。同窓会は本学にとっても強固な協力関係を有し、これまでも様々な形で卒業生からの応援を得ていたところである。このような同窓会との関係においても、このキャリア形成支援システムによるネットワークの形成によって、より若い世代の参加が同窓会とのつながりを強めることも期待できる。

6. 本プログラムの改善・評価

この新たな取組の実施後、新たに組織する運営委員会において、取組に関する自己点検・評価を実施し、就職支援室の点検・評価を経た後、さらに大学全体の自己点検・評価を評価企画室において行うことによって、全学的な観点からの改善・見直しを行う予定である。また、学生に対しても卒業・修了時点でのアンケート調査を行い、本学の就職支援全般の取組の有効性等について、学生による評価を行う予定である。さらにキャリア形成支援システムの登録メンバーに対しても意見や評価を随時尋ねることで、卒業生等からの評価を得ることが可能である。

7. 本プログラムの実施計画・将来性

初年度の2007（平成19）年度は、先行する大学院人間文化研究科のメーリングリストを参考にプログラム

開発・登録情報の項目などデータベース項目の設計を行うとともに、投稿情報や発信情報の適否について判断する運営組織（運営委員会）を確立する。キャリア形成支援システムの運用規則、個人情報保護の取扱い方針を策定するとともに、サーバーやパソコン等の設備の整備を行う。

運用が開始可能となった段階で、卒業生・修了生への周知案内を行う。

メンバーの登録処理と日々メンバーから寄せられる情報を処理する運用スタッフの配置を行う。

2年目の2008（平成20）年度は、正式運用開始、卒業生等への周知案内を行うとともに、卒業生からの就職・転職等の相談に応じるキャリア・アドバイザーを配置し、相談体制の整備を図る。企業等への中途採用者の求人依頼、研究者公募情報の収集を行う。また、卒業生を招き、在学生のために進路選択や就職活動をテーマとした講演会・パネルディスカッションを開催する。

3年目の2009（平成21）年度は、運用を継続。

4年目の2010（平成22）年度は、運用を継続するとともに、これまでの実績を集計し、分析、評価を行う。

このシステムの運営にあたる運営委員会は、副学長（教育・学生支援担当）を長として、就職支援室員、各学部から選出された教職員で構成することとし、運用に関する重要事項や情報の取扱いなどを協議する。

このたびの申請による補助期間終了後については、運用スタッフに係る人件費等必要な経費を学内予算で手当する予定であり、将来的には、この取組の成果を見て、現在は学生生活課の一係である就職係の組織を見直し、スタッフ面、予算面での充実を図り、キャリア支援に取り組む独立した組織に発展させたい。

選 定 理 由

本取組は、21世紀の新しい時代を担う社会のリーダーとして、男女共同参画社会の実現に貢献できる女性人材の養成を図ろうとしています。

新しい試みとして、奈良女子大キャリアML（メーリングリスト）を作り、卒業生や大学院修了生のネットワーク作りの構築により、再チャレンジを目指すキャリア形成プログラムとして、新規性・独自性のある内容であり、企業や社会からも注目され、その大きな効果が期待されるものです。

しかしながら、MLを効果的に利用する方法・組織・運用・管理などに対する具体的な計画性にやや欠けています。すでに実施されている大学院人間文化研究科のMLの実績や問題点を整理・検証し、今後展開される全学的なMLのシステムに反映して欲しいと考えます。

そして、今後、計画が具体的に実行される中で、MLの有効な活用方法等に関し、ノウハウを蓄積し、卒業生・修了生のネットワーク作りに大いに発展する可能性があるものと期待します。さらに、貴学が、女性固有の育児支援を含むライフサイクルを視野においたキャリア支援に積極的に取り組み、将来、多くの女性リーダーを輩出することを期待します。

以上のことから、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。

